

授 業 科目名	【 G 】 フランス語 I			区 分	開講年次	【 G 】1	単位数	【 G 】1
	【 H 】 フランス語 I			選 択 必 修		【 H 】1		【 H 】1
	【 I 】 フランス語 I					【 I 】1		【 I 】1
科目区分	外国語科目：【G・H・I】教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（全教科）							
授業形態	対面開講							
担当形態	単 独	【 G・H 】 教員の免許状取得のための（全教科選択必修）科目						
		【 I 】 教員の免許状取得のための（全教科選択必修）科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 「外国語コミュニケーション」						
サブ タイトル	フランス語で広がる新しい世界					担当者	牧 彩花	
授業概要	【概要】	フランス語は、フランスだけでなく、ヨーロッパの近隣諸国やカナダ、アフリカの国々など、世界のさまざまな地域で用いられています。また、国際連合やオリンピックでも公式言語の一つとして用いられており、国際社会において重要な役割を担っています。そのため、フランス語を習得することで、見える世界は大きく広がり、コミュニケーションできる人々の幅も格段に広がります。 本授業では、フランス語の基礎を学ぶことを通して、初歩的なフランス語運用能力、外国語によるコミュニケーション能力、異文化理解能力を養うことを目的とします。基礎的な英語の知識も活用しながら、フランス語の文法を体系的に学ぶとともに、フランス語圏を訪れた際のさまざまな場面を想定した会話練習や、映像・音声教材を用いた学習を通して、実践的なコミュニケーション能力を身につけます。また、フランス語圏の文化や価値観に触れ、日本の文化と比較しながら異文化への理解を深め、多様な文化的背景を持つ人々を尊重し協働することができる姿勢を養います。フランス語を学ぶことで、日本語や英語とはまた違う角度から、世界を見つめてみましょう！						
	【到達目標】	フランス語の基礎的な語彙・文法を理解し、初歩的なフランス語を用いて聞く・話す・読む・書くことができる。 フランス語圏で想定される基本的なコミュニケーション場面において、適切な表現を用いてやり取りができる。 フランス語圏の文化や社会について理解を深め、自国文化との比較を通して異文化を尊重する姿勢を身につける。						
履修条件	授業ではペアワーク・グループワークを行うため、他の学生と協力して活動することが求められます。また、指定の教科書を必ず持参してください。							
アクティブ ラーニングの 方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【－】	対話・議論型授業	【○】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①		－（当てはまらない）					
	DP(ディプロマ・ポリシー)②		◎（よく当てはまる）					
	DP(ディプロマ・ポリシー)③		－（当てはまらない）					
	DP(ディプロマ・ポリシー)④		◎（よく当てはまる）					
他科目との 関連性	この科目の履修後には「フランス語Ⅱ」を履修し、さらにフランス語力を磨いてください。フランス文化に興味がある学生は「言語圏文化論(仏)」も履修してください。							
教科書	ニコラ・ガイヤール / 加藤豊子他、『新装 カフェ・フランセ』, 朝日出版, 2,640円(本体2,400円+税), ISBN: 978-4-255-35262-6							
参考書	『ロベール・クレ仏和辞典』, 駿河台出版, ISBN978-4-411-02125-0（初心者向けの紙媒体の小型辞書） 『プチ・ロワイヤル仏和辞典 第5版 小型版』, 旺文社, ISBN978-4-010-75312-5（初心者向けの紙媒体の小型辞書） 東京外国語大学モジュール(フランス語) : https://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/fr/ (フランス語を無料で自習できるオンライン教材)							
評価方法	授業内で実施する学習到達度確認試験 40% 小テスト(授業の初めに実施する) 40% 授業参加度(授業内での発言、リアクションシートなど) 20%							
フィードバック 方法	小テストや課題については、授業内またはeラーニングシステムを通じて解説を行います。授業内で実施する日本とフランス(フランス語圏)の文化比較に関する発表については、発表準備の段階で適宜アドバイスを行うとともに、発表後に講評・フィードバックを行います。							
評価基準	試験・小テスト・授業参加度の全てにおいて、到達目標を超えて学生が主体的に学修したと認められる場合は、「S」評価とし、到達目標を達成している場合は「A」の評価を与えます。到達目標は概ね達成しているものの、授業内容の理解に何らかの不適切な点がある場合はその程度に応じて「B」または「C」とし、授業内容の理解が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とします。なお、出席要件を満たさない場合や最低限の評価に必要な課題の未提出など、評価不能な場合は「F」とします。							

授 業 科目名	【 G 】	フランス語 I	区 分	開講年次	【 G 】1	単位数	【 G 】1
	【 H 】	フランス語 I	選 択 必 修		【 H 】1		【 H 】1
	【 I 】	フランス語 I			【 I 】1		【 I 】1
授業回数	授業内容						
1	Leçon 1 : Je m'appelle Denis オリエンテーション、アルファベット、挨拶						
	予習:	教科書のIntroductionに目を通す		復習:	会話文、語彙の復習		
2	Leçon 1 : Je m'appelle Denis 自己紹介1						
	予習:	音声を聴いて語彙の発音・意味を確認する		復習:	会話文、語彙の復習(翌週小テストを行う)		
3	Leçon 1 : Je m'appelle Denis 自己紹介2						
	予習:	音声を聴いて語彙の発音・意味を確認する		復習:	会話文、語彙の復習(翌週小テストを行う)		
4	Leçon 2 : Tu habites où ? 職業・身分						
	予習:	音声を聴いて語彙の発音・意味を確認する		復習:	会話文、語彙の復習(翌週小テストを行う)		
5	Leçon 2 : Tu habites où ? 住んでいる所						
	予習:	音声を聴いて語彙の発音・意味を確認する		復習:	会話文、語彙の復習(翌週小テストを行う)		
6	Leçon 3 : Un panaché, s'il vous plaît. 国籍、話せる言語						
	予習:	音声を聴いて語彙の発音・意味を確認する		復習:	会話文、語彙の復習(翌週小テストを行う)		
7	Leçon 3 : Un panaché, s'il vous plaît. カフェで注文する						
	予習:	音声を聴いて語彙の発音・意味を確認する		復習:	会話文、語彙の復習(翌週小テストを行う)		
8	Leçon 4 : Tu as une adresse e-mail ? 身の回りのものについて話す						
	予習:	音声を聴いて語彙の発音・意味を確認する		復習:	会話文、語彙の復習(翌週小テストを行う)		
9	Leçon 4 : Tu as une adresse e-mail ? 年齢、兄弟について話す						
	予習:	音声を聴いて語彙の発音・意味を確認する		復習:	会話文、語彙の復習(翌週小テストを行う)		
10	Leçon 5 : C'est qui ? 人の性格や特徴について話す						
	予習:	音声を聴いて語彙の発音・意味を確認する		復習:	会話文、語彙の復習(翌週小テストを行う)		
11	Leçon 5 : C'est qui ? インタビューする						
	予習:	音声を聴いて語彙の発音・意味を確認する		復習:	会話文、語彙の復習(翌週小テストを行う)		
12	Leçon 6 : Qu'est-ce que c'est ? 物について聞く・答える						
	予習:	音声を聴いて語彙の発音・意味を確認する		復習:	会話文、語彙の復習(翌週小テストを行う)		
13	Leçon 6 : Qu'est-ce que c'est ? 場所について聞く・答える						
	予習:	音声を聴いて語彙の発音・意味を確認する		復習:	会話文、語彙の復習(翌週小テストを行う)		
14	これまでの学習項目の復習・学習到達度確認試験						
	予習:	これまで勉強したことの総復習		復習:	会話文、語彙の復習、これまで勉強したことの総復習		
15	試験フィードバック・総括						
	予習:	試験問題のやりなおし・総まとめ		復習:	これまでの授業内容を振り返る		
その他	予習および復習は、それぞれ90分程度を目安にしてください。 毎回授業の初めに前の週の内容について小テストを行います。遅刻した場合は受験できません。 ※G・H・I各1:【選択必修(C)】						